Sharing Nature life
シェアリングネイチャーライフ
2019 夏 VOL.25

自然に暮らす

遊んで、学んで、楽しんで!

設置店募集!

Nature Game No.090
動物が困っています〈動物の弁護士〉

Nature Game No.007
朝一番にやってみて〈音いくつ〉

特集：Nature Game No.090

動物の弁護士

「共存」って何だ？

インタビュー
日本自然保護協会参与　横山隆一（よこやまりゅういち）

https://www.naturegame.or.jp/

Contents
●特集／動物の弁護士…p2　●Dr.日置―「ことば」×“科学”／学びに向かう力…p8　●SNLな仲間たち／松本洋子さん…p10　●シェアリングネイチャーウェルネスやってみた…p12

自然に寄りそう 未来につなぐ
公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会
SharingNature®

スポーツくじ toto BIG
スポーツ振興くじ助成金を受けて作成しています

NatureGame No.

090

Animal Lobbyists

発案者：Joseph Cornell

動物の弁護士

Sharing Nature Life

ネイチャーゲームをはじめとする『シェアリングネイチャー』
それは、人が自然を尊重し、共生していく社会のキーワード。
公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会は
〝自然と遊び、自然から学ぶよろこびにあふれた生活。
――をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

複数名のリーダーが野生動物役と弁護士役に扮して、参加者の前で「動物たちを取り巻く環境の変化」や「人間の活動が動物たちに与える影響」について語るネイチャーゲームです。動物と弁護士のやり取りを聞きながら、参加者にその動物たちが置かれている状況や人間と自然の共存について考えるきっかけを提供します。

SNL-vol.25特別付録〈動物の弁護士〉用バッチ

カラーコピーで拡大して切り取り、
弁護士役・動物役になる人が胸につけてご使用ください。

interview インタビュー■日本自然保護協会参与・横山隆一さん

人がこれからどう生きるかを考える

野生動物の精緻な仕組みを知って

今、自然はどんな状況に置かれ、どんな視点を持てば、人と自然の共生につなげられるか。この前提を知ることは、ネイチャーゲーム〈動物の弁護士〉を実践するうえでとても大切です。日本自然保護協会で、長く日本の自然保護の最前線に立ち、森や川をはじめ、日本の生態系を守るため活動してきた横山隆一さんのお話から考えます。

高校生物教員をへて1982年、日本自然保護協会に就職。赤谷の森などの国有林プロジェクト、政府施策の立案参加、公務員への自然保護に関する研修などに長年たずさわり、2019年1月に同会を退職。現在も同会参与として同プロジェクトに引き続き携わるほか、執筆活動などを行う。日本イヌワシ協会副会長。

●取材・文／大武美緒子 ●イラスト／井上みさお

日本の自然を守るための〝しくみ〟をつくってきた40年

人に自然のおもしろさを伝えることが好きで、理科の教師になったという横山隆一さん。でもそこで目の当たりにしたのは、自然が大規模開発などで丸ごとなくなっていく現実でした。1970年代～1980年代初頭のことです。

「まずは日本の自然を守らないといけない」。その危機感から1982年24歳のとき、大学在籍中から活動に参加していた日本自然保護協会に就職しました。

以来、日本の自然保護の最前線で活動、自然の価値を世の中に広め、国有林をはじめ、日本の森を守るための仕組みづくりなどに取り組んできました。

「1990年代から20年ぐらい、開発から自然を守ることに関しては連戦連勝でした」と話す横山さん。

しかし、その一方で「悪化が加速するばかりの自然がある」と言います。

あたりまえにあった身近な自然が失われている

「さわらなくてはいけない自然をさわらないために悪影響をおよぼしている場所、里山や田んぼ、人が手を入れて生態系の豊かさをつくってきた自然です。バッタ

群馬県みなかみ町北部と新潟県境に広がる約1万haの国有林「赤谷の森」を対象とした「赤谷プロジェクト」、今年で16年目を迎える事業です。

赤谷の森は、入口の猿ヶ京温泉から上越国境の山々まで標高差1400m、奥山にはブナ、ミズナラの自然林、里山には人工林とかつて薪炭林であったコナラ林、希少種のイヌワシ、クマタカ、ツキノワグマの生息地でもあり、かつて交易路だった旧三国街道が通じるなど、古くから人と自然がかかわり、多様な自然を育んできた背景があります。

同プロジェクトで猛禽類のモニタリング調査などを担当してきた横山さん。現在、取り組んでいる試みのひとつが、絶滅危惧種イヌワシの生息環境の質を向上させるための「狩場創出実験」です。

赤谷の森には、1つがいのイヌワシが生息しています。2003年以降12年間で4回繁殖に成功したものの、2010年以降、5年連続で失敗していました。

「イヌワシは開けた草原や林間に隙間のある場所を狩場とします。赤谷の森に暮らすつがいは、もともとは、奥山のブナの自然林や里の雑木林を狩場にしていましたが、それらが皆、戦前戦後にスギやカラマツの人工林にされてしまいました。植えられた木がまだ若いころは人工林でも狩場にできたものの、放置され、林の上部が完全に閉ざされてしまい林床の植物も育たず、エサになる動物も暮らせなくなったこと。さらにイヌワシが森林内に入り込めない環境になってしまったことが原因だと考えています。その人工林を伐採し、再造林はせず自然林を再生させ、エサ不足をなくそうというのが狙いです」

2015年9月に約2haの伐採を行い、伐採前の1年間と伐採後2年間のイヌワシの行動を比較する調査を実施。その結果、イヌワシが獲物を探す行動が増える状況を2年間維持。さらに、狩場創出直接の効果ではないとしながらも2016年6月、赤谷の森にすむイヌワシのつがいが、7年ぶりに子育てに成功したことが確認されました。

さまざまな生き物が生息し、豊かな生態系をつくってきた赤谷の森

自然を元のレールに置き直す試み 赤谷プロジェクト

身近な自然が失われていることに危機感を強くしていた2000年初頭、持続的な自然利用をできる地域づくりと多様な自然環境再生事業を目的に日本自然保護協会のほか、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局の3つの中核団体が協働で立ち上げた事業があります。

動物保護を考えるときにヒューマニズムを持ち込まない

赤谷の森にすむイヌワシをテーマに〈動物の弁護士〉プログラムをつくるとしたら……、との問いに横山さんはこう話します。

「〈動物の弁護士〉が優れているのは、最低2種、できれば3種の動物を登場させるという点ですね。イヌワシの生息環境改善は、イヌワシのためだけではない、そこに住む動物すべての生息環境改善が目的です。

そして、これは赤谷に住む動物だけではなく動物の保護を考える際の根幹になりますが……、野生で生きる動植物の精緻な仕組みを知り、野生の世界で起こる物事をヒューマニズムで判断しないこと。これが大前提になると思います」

ヒューマニズムで判断しないとは？

「〈動物の弁護士〉は、動物の困りごとを聞くネイチャーゲームですね。たとえば、イヌワシはノウサギをつかまえて首だけをもいで体を食べる。その様子を見て残酷だ、かわいいノウサギはイヌワシが減れば、食べられなくてすむから困らないじゃないか、と言う人がいたとします。それがヒューマニズムからの視点です。

野生動物が生きる自然界は、個を守るためではなく、種を守るためにできています。その精緻な仕組みで成り立っている自然界にヒューマニズムを持ち込むと、つじつまが合わなくなって、多様性が失われることにつながります」

食べる動物と食べられる動物 〝ニッチ〟の違いを知る

精緻な仕組みのひとつが「ニッチ」＝（生態的地位）の違いだと横山さんは言います。イヌワシは奥山から山里を行き来し、10～20㎞もの距離を移動しながら狩りをします。そこで平均して1週間に1頭はノウサギを捕る。ノウサギは1㎢に数家族、少なくとも10頭はいるでしょう。イヌワシが1週間に1頭ノウサギを捕っても、繁殖力の強いノウサギは、元の数に容易に戻すことができ、種の存続が脅かされることはないのです。

「イヌワシは1年に1～2個しか卵を産みません。ノウサギは1年に5～6頭。捕食する動物は増えすぎない仕組み、食べられる動物はそれを前提にした仕組みになっているのが自然界です。その仕組みからはずれ、ヒトだけが個を増やしつづけ、破綻が生じているのが現代です。

つまり野生動物は、健全に生きられる環境さえあれば困りごとはありません。逆にすべての動物にとって困ること、それが環境を壊してしまうことです」

都会の消費者が生産者として週末、自然にはたらきかける

「自然界のバランスが破綻したままの状態が続くと、強いインパクトで自然はその不均衡を解消しようとする。人間にとっての脅威が必ず訪れます。温暖化はそのひとつと言えます」

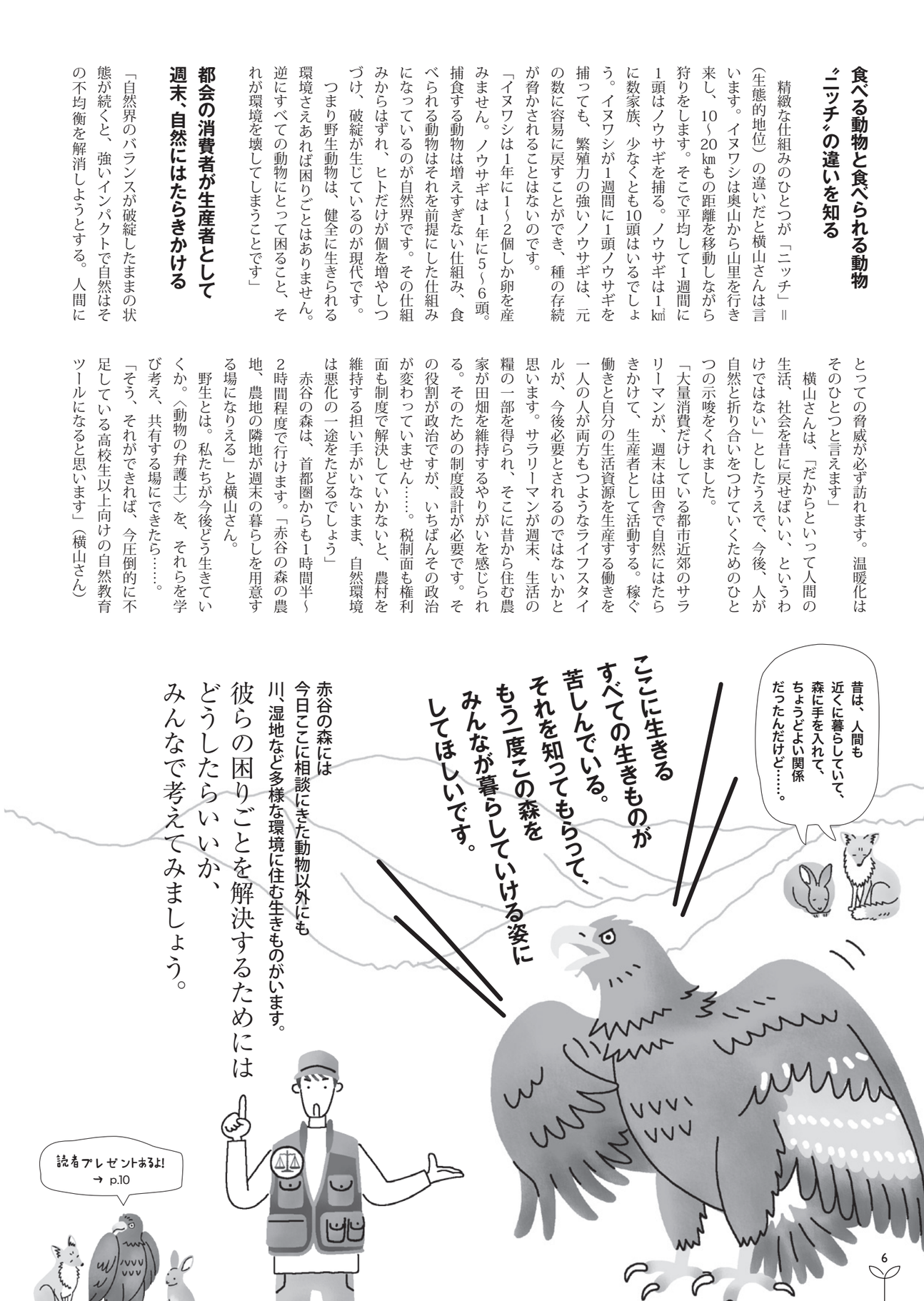
横山さんは、「だからといって人間の生活、社会を昔に戻せばいい、というわけではない」としたうえで、今後、人が自然と折り合いをつけていくためのひとつの示唆をくれました。

「大量消費だけしている都市近郊のサラリーマンが、週末は田舎で自然にはたらきかけて、生産者として活動する。稼ぐ働きと自分の生活資源を生産する働きを一人の人が両方もつようなライフスタイルが、今後必要とされるのではないかと思います。サラリーマンが週末、生活の糧の一部を得られ、そこに昔から住む農家が田畑を維持するやりがいを感じられる。そのための制度設計が必要です。その役割が政治ですが、いちばんその政治が変わっていません……。税制面も権利面も制度で解決していかないと、農村を維持する担い手がいないまま、自然環境は悪化の一途をたどるでしょう」

赤谷の森は、首都圏からも1時間半～2時間程度で行けます。「赤谷の森の農地、農地の隣地が週末の暮らしを用意する場になりえる」と横山さん。

野生とは。私たちが今後どう生きていくか。〈動物の弁護士〉を、それらを学び考え、共有する場にできたら……。

「そう、それができれば、今圧倒的に不足している高校生以上向けの自然教育ツールになると思います」（横山さん）



Report

大都会・丸の内界隈で自然探し

Event Report 1

2019／3／10　榎谷勝弘（三重県）

大都会での自然さがしというテーマに興味を持ち参加しました。日本野鳥の会の恩田幸昌さんの案内で、大手町から皇居前、日比谷公園まで自然観察を楽しみました。十数種類の野鳥が観察できたこと、「大手町の森」では秋にドングリ拾いができそうなこと、日比谷公園にコウモリの巣箱があったりヒキガエルが棲息していることに驚きました。都会にありながら、そこに住む動植物に配慮して管理していることに感銘を受けました。

安全対策セミナー

Event Report 2

2019／4／28～29　村上彰一（長崎県）

セミナーでは日本協会が掲げる安全対策指針を柱に、危険の予知から回避、そして対応に関する流れを参加者全員で共有しました。

ネイチャーゲームは五感を通して自然に気づくことを第一歩としてとらえていますが、安全対策についても危険や傷病者に気づくことからスタートします。その気づきが行動へ移せるか、行動へ移すためには知識・技能も必要です。危険へ適切に対応するためには、日頃から訓練が必要だと感じたセミナーでした。

広島県・小谷浦（おやうら）での「お茶っこ広場」

つながろうニッポン! 2011 NATURE GAME

被災地復興支援情報

原田　澄（広島県）

3月14日、久しぶりに訪れた小屋浦は、昨年夏に起こった西日本豪雨で被害のあった地域です。道路の斜面に掛けられた何枚ものブルーシートや置き去りにされたままの家具などを目の当たりにし、まだまだ復興にほど遠い被災地の痛手の深さが、痛切に心に響きました。

今回がスタッフ初参加の「お茶っこ広場」は、広島県協会の仲間たちが中心となりスタートしたばかりの被災地支援活動。素敵なメッセージとともに岩手や福岡など、各地から届けられたお菓子に感激しつつ「被災した方々にどのように接したらいいのか…」思いを巡らせ、準備を進めました。当日は5名の方が参加してくださり、愛らしいおひな様の壁掛けを作りながら、「お元気でしたか？」と懐かしそうに言葉が交わされ、話に花が咲いた時間でした。「お茶っこ広場」は、〝ホッと一息〟のくつろぎの場であり、被災された方々の交流の場として、大きな役割を担っている…それを肌で感じることができました。

次回のお茶っこ広場は6月11日（火）！

お菓子やメッセージをお送りいただく場合は左記まで。

送付先　〒731-4331
広島県安芸郡坂町小屋浦2丁目39-20
西昭寺　河野法誓住職　様宛

News

2019年度助成金採択状況

下記の助成金が採択されました。

■スポーツ振興くじ助成事業
　◆情報提供（広報ツール）

2019年度永年会員表彰

会員を永年続けてこられた方を表彰させていただいています。2019年度は、10年継続会員297名、20年継続会員246名が誕生。該当する方には、6月に「記念バッジ」をお送りします。

10年会員
バッジ

20年会員
バッジ

実践事例・研究報告募集

会員の皆さまの実践事例や研究報告を募集しています。多くの仲間にとっての貴重な資料となりますので、積極的にご応募ください。

●応募締切り：6月30日
●応募方法：リーダーハンドブック理論編（第7版）P.121、またはホームページをご参照ください。
●応募先：jirei@naturegame.or.jp

シェアリングネイチャー奨励賞募集

ネイチャーゲーム指導員および組織の優れた活動や研究を奨励しています。さまざまな取組みをご応募ください。（自薦・他薦は問いません）

●応募締切り：6月30日
●応募方法：リーダーハンドブック理論編（第7版）P.123、またはホームページをご参照ください。
●応募先：shoreisho@naturegame.or.jp

ありがとうを伝えよう! 「サンクス賞」募集

会員の皆様から推薦を募り、個人の目線で隣の人に「ありがとう」を伝える賞です。推薦理由はあなた次第！ご応募お待ちしています。

●応募締切り：6月30日
●応募方法：日本協会HP→「会員のページ」→「【募集中！】シェアリングネイチャー普及（サンクス）賞」をご覧ください。
●応募先：arigatou@naturegame.or.jp

第14回全国一斉シェアリングネイチャーの日

毎年10月第3日曜日は『全国一斉シェアリングネイチャーの日』です。詳細は9月号で！

●実施日：10月20日（日）
●テーマ：森で元気に遊ぼう、モリンピック！

【注意】このテーマは日本協会が一般向けに提案するものです。地域の会イベントのテーマは自由に設定してください。

［お詫びと訂正］　本誌vol.24（2019春号）に下記のような誤りがありました。関係者の方、読者の皆様に深くお詫びし、訂正をさせていただきます。
シェアリングネイチャーライフvol.24　P.7「被災地復興支援情報」本文22行目
誤：お祭りの時間　→　正：お茶の時間

Dr.日置の 「字」から自然を科学する

LECTURE … 9　イラスト／井上みさお

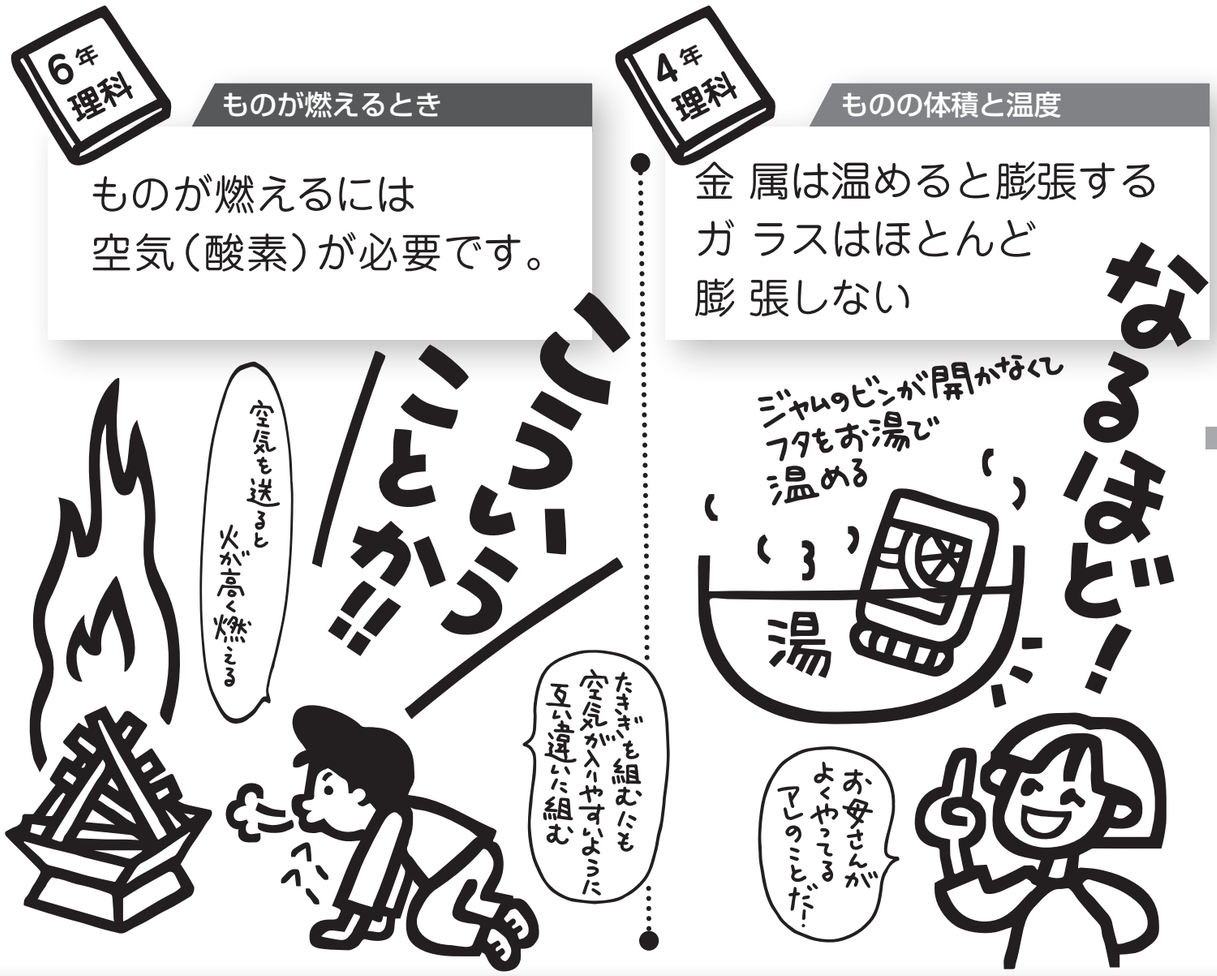
「ことば」cross“科学”

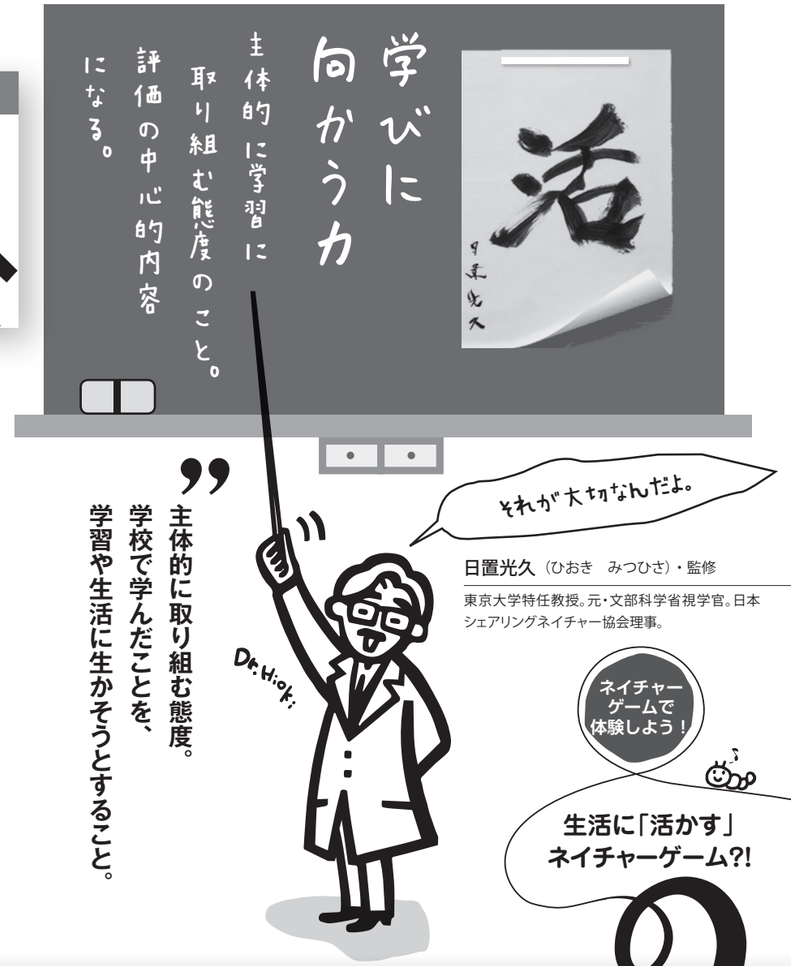
REPORT

今年の3月末、文科省から学習評価の観点が示されたそう…そこには、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに「主体的に学習に取り組む態度」があるという。自ら進んで学習に取り組み、学んだことを世の中でも役立てることが大切なんだ！と、今回も日置先生が熱く語り始めた。

『おもひでぽろぽろ』というジブリ映画の例えがわかりやすかった。小学生の頃に算数が苦手だった主人公のタエ子さんが「素直に分子と分母をひっくり返して掛けて100点だったリエちゃんみたく、分数の割り算がすんなりできた人は、その後の人生もすんなりいくらしいのよ」と言うシーン。ただひっくり返して掛ければいいと言われても「なぜひっくり返すの?割り算なのになぜ掛けるの?」と、その理由がわからない…

こういう疑問を持つことが大事だと、今、学力観が変わってきている。これは形式的に答えを書くことよりも、自分の疑問や感覚を大切にして、そこから納得のいく解を見つけるということ。自分の感覚や身体を使って学ぶ、自然体験を通して理解を深めていく、そんなことが大切になってくるらしい。「そういう学びが生活に生かされ、自然や世界を見る目が変わる」ことがこれからの教育に求められる姿なのだと…「学校知」と「生活知」の統合こそ、真の学びということなのだ!





日置光久（ひおき　みつひさ）・監修

東京大学特任教授。元・文部科学省視学官。日本シェアリングネイチャー協会理事。

ネイチャーゲームで体験しよう！

生活に「活かす」ネイチャーゲーム?!

Nature Game No.007

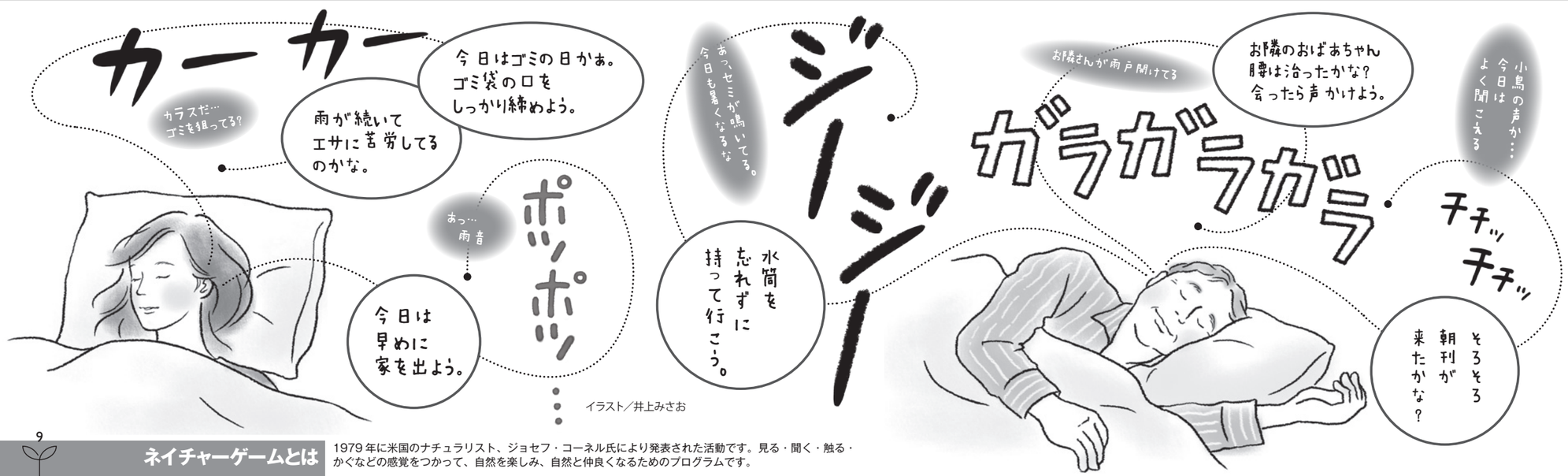
音いくつ

耳を澄ませて、周りから聞こえてくる音をじっくりと聞きとるネイチャーゲーム。朝起きだす前に布団のなかでやってみると…意外に生活に活かせる体験になる?!

【楽しみ方】

① 朝、目が覚めたら、布団に横になったままで周りから聞こえてくる音に耳を澄ませる。

② 聞こえる音があなたの生活の何かに繋がっているか?考える。



イラスト／井上みさお

ネイチャーゲームとは　1979年に米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された活動です。見る・聞く・触る・かぐなどの感覚をつかって、自然を楽しみ、自然と仲良くなるためのプログラムです。

ジョセフ・コーネルの 課外授業

『シェアリングネイチャーライフ』をひも解くコーナーです。ネイチャーゲームの創始者J・コーネルの著書や講演録から未来に伝えていきたい言葉をピックアップしてご紹介します。

イラスト／初澤久美

ソフトでスローな自然体験

ガンジーは「人生はスピードを上げることだけが目的ではない」と言いました。現代の生活ではテレビ番組は数秒ごとに画面が変わるし、何もかもスピードがとても速いです。これは子どものみならず大人にも強い影響を与えています。ハリウッドのある実業家は「我われは子どもたちに影響を与えているだけではなく、彼らを所有しているのだ」と言いました。それは、マスメディアが「子どもたちをいかようにも操ることができる」という意味にも捉えられますね。これはある意味では現実かもしれません。

この現実に対して新たな「日常の体験」を提示することが必要になってくると私は思います。それには自然体験がとても有効ではないでしょうか？自然からの刺激はとてもソフトでゆっくりしています。ネイチャーゲームを使って自然から得られる刺激（体験）を人々に提供するネイチャーゲームリーダーは、このスピードの速い現代でとても大切な役割を持っていると思います。

Joseph Cornell
1950年米国生まれ。野外活動インストラクターを経て1979年『Sharing Nature with Children』発表。以後、世界的なナチュラリストとして活躍。当協会名誉会長。

みんなが、天才!!

「自然が好き!」を資格にする

ネイチャーゲーム®リーダー養成講座

養成講座日程

- ●6/15（土）～16（日）大坂
- ●6/15（土）～16（日）佐賀
- ●6/29（土）、30（日）石川
- ●7/20（土）～7/21（日）長野
- ●8/3（土）～4（日）岩手
- ●8/10（土）～12（月休）山口
- ●8/17（土）、18（日）福島
- ●9/7（土）、8（日）山形
- ●9/14（土）～15（日）埼玉
- ●9/14（土）、15（日）大分
- ●9/15（日）、16（月祝）徳島

ネイチャーゲーム　資格　検索　click!

www.toto-dream.com　www.toto-growing.com
19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

風のようにフラリと現れる〝仙人〟のような先輩から幼児ネイチャーゲームを学ぶ

幼児の自然体験にネイチャーゲームを活用するリーダーが増えているのが最近の大きな流れになっています。香川県で子育て支援活動をしている松本さんもその一人。

8年前にリーダー養成講座で初めてネイチャーゲームを体験した時「カミナリが落ちたみたいだった」という松本さん。「今まで自分の感覚を使ったことがなかったんだ！って…自分の感覚を使う、あの〝心地よさ〟の虜になりました」と語ります。

しかし、その感動とは裏腹に、幼児たちへのネイチャーゲームには大きな壁を感じていたとも。「講座で体験した、あの素晴らしいネイチャーゲームが、私が活動をしている近所の公園や幼児の活動に結びつかなくて、悶々としていました」

そんな時に、養成講座の講師だったYさんがフラリと自宅を訪れたそうです。「森もない、木の実もない、相手は幼児だし…ネイチャーゲームができない」と話したら、Yさんが庭に出て葉っぱを何枚か取ってきて、広げたバンダナの上に並べたんです。そして「10秒だけ見ていいよ」と…10秒たったら「これと同じものを見つけてきて」と言ったそうです。Yさんと葉っぱの答え合わせをして、楽しかったという松本さん。〈同じものを見つけよう〉というこのネイチャーゲームの体験によって身近な公園で幼児とネイチャーゲームを楽しむ自信が持てたそうです。やがて、となった子育て支援団体でネイチャーゲームを柱に事業を展開するようになったと言います。「自然を大切に思う子どもを一人でも多く育てたい」と熱く語ります。

その後も、仙人のようなYさんに弟子入りするがごとく、幼児向けのアレンジ法を学んだ松本さん。
今や香川県協会の事務局長の役割も担うようになり、ネイチャーゲームにどっぷりハマっています。

イラスト／初澤久美　取材／佐々木香織

読者プレゼント!

Present

アンケートに答えてシェアリングネイチャーグッズをゲットしよう!

応募締め切り：2019年7月15日

アンケートは…

◆HPトップページから
https://www.naturegame.or.jp/

◆メール・FAXでも
sasaki@naturegame.or.jp
FAX 03-5363-6013

メール・FAXの場合は下記をご記入ください
【アンケート項目】
1. お名前　**2.** ご住所（会員番号）　**3.** 本誌の評価（A.とても良い／B.良い／C.普通／D.良くない）　**4.** 良かったコーナー　**5.** プレゼント希望（❶／❷／❸）　**6.** ご意見・ご要望

❶ 赤谷の森のカスタネット 2名様

木材の入手困難から製造を中断していた、みなかみ町の「カスタネット工房」。赤谷プロジェクトの間伐材から作った新たなカスタネットは、森と人の関わりの証。（800円／森の恵みと学びの家）

❷ Dr.日置コーナー冊子『自然に親しみ、学び、考える』 10名様

本誌連載「Dr.日置」のバックナンバー（vol.10～24）が一冊に。講演会などで配布するための非売品。面白い知識やネタが満載!（提供：日置光久）

❸ アニマルスクランブルTシャツ 1名様

本誌vol.23の表紙がTシャツになって新登場！大人気のネイチャーゲーム〈動物交差点〉をイメージした素敵なイラスト。色とサイズは当選者の希望で（2,500円／ネイチャーゲームショップ）

自然を楽しむグッズがいっぱい!　ネイチャーゲームショップ　検索　click!

シェアリングネイチャー

今日も、明日も、あさっても

ウェルネス やってみた!!

いいねぇ〜!!

会議の途中でSNウェルネスやってみるよ〜

会議の合間に〈メディテーション〉やってみた

【シェアリングネイチャーウェルネスとは?】
自分自身が自分のために日常のなかで行うネイチャーゲーム。自然のなかで「今、ここ」に集中するための心のトレーニングです。

このコーナーのネタに困っていた編集担当のSは月に一度、役職員が集まる「事務局会議」の途中で10分間の休憩をとり、各自好きな場所に散って出席者全員で〈メディテーション〉をやってみることにした。

ただの休憩だと、会議の続きを雑談したりして結局休憩にならないけど、ウェルネスだと場が静かになって、頭が切り替わった。

静かになったのが、びっくり。次の音が聞こえた。ドアを開けたな、またシンとしたな…って。

何を思ったのか、僕は自分の席に座っちゃって(笑)、パソコンのリターンキーを押してしまった!で、ダメダメって思って気持ちを切り替えてやってみた。

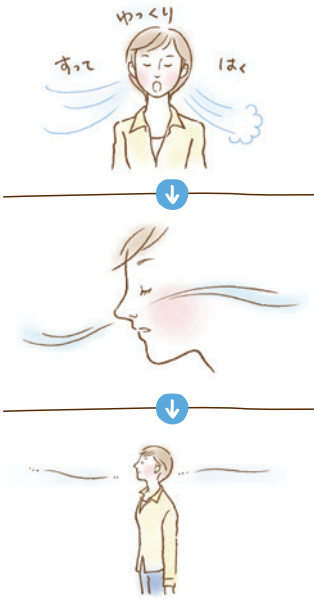
つくづく、会議って疲れるんだな〜って思った。会議中には気づかなかったけど、〈メディテーション〉をして対比が見えてしまった。

室内が嫌いだから、外の植え込みに座ってやった。でも空気が汚く感じて、自分の中の空気を入れ替えたかったけど、できなかった。都会でやるなら室内の方が良かったのかも?

どこか隅っこがあれば、どこでも瞑想ルームになるね。非常階段の出入口1m四方の空間に座ってやってみた。スタッフがパンフレットを数える指と紙が擦れる音…音の気づきが楽しかった。

読者の皆さんも、会議の合間に試してみてください↓

〈メディテーション〉



↑〈メディテーション〉楽しみ方

① ゆっくり息を吸い込み、ゆっくり息を吐く。
② 息が自発的に吸い込まれるのを待って、息の流れを観察する。
③ 息の流れを観察しながら、呼吸と呼吸の"間"に注意を傾ける。
④ しばらく続けたあと、そのままの体勢で、静寂と静穏を楽しむ。

みんなでウェルネスしてわかったこと…

十人十色。それぞれに"気づき(効用?)"があるみたい。

シェアリングネイチャーライフ Vol.25
通巻106号
発行日　2019年6月15日
発行人　西澤信雄
発行所　公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会
〒160-0004　東京都新宿区四谷4−13−17ワークスナカノ2階
Tel. 03-5363-6010　Fax.03-5363-6013
https://www.naturegame.or.jp/jimukyoku@naturegame.or.jp

設置店募集! ご連絡ください!

編集:佐々木香織、山田久美子
デザイン・DTP:花平和子
表紙イラスト:矢原由布子
表4ハンコ:矢原由布子　消しはんワークショップより
表4マンガ・イラスト:井上みさお

編集後記

今号の編集を通して、いちばん新鮮だったのが「生活にネイチャーゲームを活かす」(P.8)という考え方。今までに「ネイチャーゲームを生活の中でやろう」という呼びかけはしてきましたが「生活に活かす」という発信は初めてのことです。読者の皆さんの生活に活かすネイチャーゲームアイデアもお待ちしています!(佐々木)

VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C003395
GREEN PRINTING JFPI F-A10026 富士見事業部 本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断掲載を禁じます。
スポーツくじ toto BIG スポーツ振興くじ助成金を受けて作成しています